

令和 2 年度
福岡美容専門学校
北九州校

学校自己評価
報告書

(自令和 2 年 4 月 1 日 至令和 3 年 3 月 31 日)

福岡美容専門学校 学校自己評価委員

委員長 教務部長 藤本 誠吾

委員 広報室長 朝長 宏之

教員 大音 亨介

事務 繁田 悠子

令和 2 年度 福岡美容専門学校 北九州校 自己評価結果

【評価 適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1 】

1. 教育理念 目標

評価項目	自己評価
A、学校の理念・教育方針・人材育成像は定められているか	4
B、学校の目指す職業教育の特色が理解され、指導に生かされているか	4
C、社会のニーズを的確に捉え、学校の将来構想が示されているか	4
D、学校の理念・教育方針・育成人材像・特色・将来構想が学生や保護者に周知されているか	3

本校は、福岡県下 2,700 店舗の美容室が加盟する福岡県美容生活衛生同業組合が設置した組合立の美容学校です。組合立という安定した設置基盤の下に、教育基本法ならびに美容師法に則り、学生の個性に応じた専門教育を施し、次世代の後継者を育成して美容業界に寄与するという崇高な理念を継続して実現するために学校運営を行っています。

技術面においては、基礎・基本技術を備えるだけでなく、礼儀やマナーを身に着けることに重点を置き、サロンに安心して受け入れていただく美容師を養成し、美容業界の健全な発展に寄与することを目的としています。

A,B,C については明確に定め、全職員に周知を図っています。

特に C、については常にリサーチを行い、それに合わせて教育内容の微調整を行っています。

D、については、例年であれば福岡校と合同で実施するイベントや、授業参観を通じて様々な教育活動・方針・成果について保護者にご理解をいただいておりますが、令和 2 年度はコロナ禍にあつてこうした場を提供することが出来ませんでした。令和 3 年度は是非安全を確保しながら機会を設けたいと思います。

2. 学校運営

評価項目	自己評価
A、教育方針・目標に沿った運営方針が策定されているか	4
B、運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
C、運営組織や意思決定機能は明確で有効に機能しているか	4
D、教職員の人事、給与に関する規定は明確に、正當に整備されているか	4
E、教務、財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
F、教育活動などに関する情報公開は適切になされているか	3
G、情報システム化等による業務の効率化や省力化が図られているか	4

A,B,については明確に定め、それに沿って学校運営を行っています。

C,についても本校の意思決定機関は、総担任、学年主任、教務部長、教頭、校長と、非常に明確です。各分掌における問題は常に管理職に報告され、問題点は修正されています。

D,については職員就業規則に準拠して厳格に実施しています。

E,についても C と同様に明確に定めており、問題はありません。

F,については平成 31 年度より本校のウェブサイト上に公開した事で、広く一般の方にも本校のことをご理解いただけていると思います。

G,については、本校はネットワークを整備し、充実させており、学生の成績や出欠といった情報のみならず募集活動の情報等も共有ができています。また、今年度はコロナ禍にあつてオンライン授業や職員のリモートワークにも取り組んだ一年でした。今後は一層の活用を進めます。

3、教育活動

評価項目	自己評価
A、教育理念・教育方針・目標に沿った教育課程の編成、実施方策などが作成されているか	4
B、育成人材像や業界のニーズを踏まえて、修業年限に応じた教育の到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
C、実習・学科などのカリキュラムは体系的に編成され、学習指導方法の工夫や研究などが職業訓練という視点で行われているか	4
D、美容業界との連携によるカリキュラムの作成やその定期的な見直しが行われているか	4
E、美容業界と連携して、実践的な職業教育を目的とした実務実習（インターンシップ）が行われているか	4
F、授業評価を行うため、研究授業等の評価体制は適切に実施されているか	3
G、職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
H、成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確か	4
I、人材育成の要件を備えた教員が、教育目標に沿って確保されているか	4
J、美容分野における先端技術・知識を習得するための研修や教員の指導力の向上のための取り組みは行われているか	3
K、職員の能力開発のための研修は行われているか	3

A,については明確に作成し、それに基づいてすべての部署が計画を立てています。教育理念に沿った目標設定と課程の編成を行い、シラバスを毎年更新することで新しく効果的なカリキュラムに取り組むことができています。美容師養成は、求められる人材像が常に変化します。こうして骨格となる理念や方針が明確であることでニーズに応じた課程編成を随時行うことが可能となっています。

B,についても同じく、明確に法に沿った形でカリキュラムの策定を行っています。

C,については本校で最も力を入れていることであり、適正かつ厳正に実施しています。

D,E,F,についても特段の問題はありません。

ただし、E についてはコロナ禍の本年は学生の安全確保について大変気を配る必要がありました。現場の状況を見て、学生に学習する機会を提供する一方で、感染リスクも考慮する必要があります。今後は「ウィズ・コロナ」の時代を迎えるのは必至であり、こうした衛生面と感染症予防についての施策を今後も継続いたします。

G,については本校の学校管理委員会（美容組合理事）委員に学校運営についての定期報告をし、意見を頂戴し、運営に有効に活かしています。

H,については学則と学生便覧に基づいて厳正に行っています。

I,について、本校では教員の確保と育成こそが学校運営の核と位置付けて教員の育成を優先事項として行っています。

J,Kについては、本校が数年来最も力を入れている事項です。しかしながら令和2年度はコロナ禍の影響を受けこうした教員が研鑽をする場を設けることを自粛しました。令和3年度については新型コロナウイルスの感染拡大状況を注視しながら是非研修を再開したいと思います。

4、学習成果

評価項目	自己評価
A、就職率の向上はなされているか	4
B、美容師資格の取得（国家試験合格）はなされているか	4
C、その他美容関連の資格取得はなされているか	4
D、資格取得に対する指導や支援が行われているか	3
E、退学率の低下が図られているか	4
F、卒業生・在校生の社会的な活躍、評価を把握しているか	4

入学者数と退学率、就職率、国家試験合格率 資料①										
入学年度	入学者数	卒業生数	退学数	退学率	休学数	就職者数	就職率	国家試験 受験者数	合格者数	合格率
H28年度生	142名	125名	17名	11.97%		124名	99.20%	124名	124名	100.00%
H29年度生	131名	119名	11名	8.39%	1名	116名	97.47%	119名	117名	98.32%
H30年度生	115名	110名	6名※	5.17%		110名	100.00%	110名	109名	99.09%
H31年度生	131名	118名	11名	8.39%	2名	115名	99.2%	117名	117名	100.00%
R2年度生	117名									

A, B,については大変高いレベルを維持していると言えます。特に国家試験合格率については成績不良者の見極めを早期に行うことが功を奏し、令和2年度も良い結果を修めることが出来ました。

C,Dについてはマナー、着付け、ネイル、メイク、エステなどの検定を実施しています。合格レベルに達していない学生にはレベル向上のための指導を放課後の時間などを利用して行っており、いずれの資格も合格率は大変高いレベルにあります。

E,について、本校では「早期発見、早期対策」の実施に取り組んでいます。

そのために担任と副担任の各クラス2名の指導体制を取っており、問題を抱えた学生の早期発見と早期のカウンセリングで退学率を低いレベルに保つことが出来ています。この、学生とのコミュニケーションを最優先する事を本校では最優先項目と位置づけています。

F,について、本校は中規模校ということもあり学生と教員の距離を程良く保つことが出来ています。そのため学生が発信する情報を掴みやすく、それを学生指導に役立てることが出来ています。

卒業後も折あるごとに卒業生の訪問を受けます。その際に卒業生やその同級生の動向を知ることが出来、卒業生の動向の把握につながっています。

5、学生支援

評価項目	自己評価
A、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
B、学生相談に関する体制は整備されているか	4
C、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
D、学生の健康管理の支援体制は整備されているか	4
E、課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
F、学生の生活環境への支援体制はあるか	4
G、保護者と適切に連携しているか	4
H、卒業への支援体制はあるか	4
I、社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか、高校との連携による教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
J、高校との連携による教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

A,については就職課が組織立った活動を行い、学生の動向や希望を見極めながら就職指導を行っています。令和 2 年度はコロナ禍にあって学生の就職先確保が懸念されました。しかしオンラインでの説明会参加や面接を行うことで対応することが出来ました。

B,については、教員だけではなく、事務や広報担当者も含めて職員全員で学生との面談を行い、学生の悩みについて早期発見し、それに対してのアドバイスが出来る体制を作りました。

C,については、令和 2 年度は在校生全員に対して 5 万円の学費支援を行いました。これはコロナ禍にあって保護者世帯が経済的に困窮していることが懸念されたためです。また、令和 3 年度全入学者に対して 20 万円の学費支援を行うことが決定しています。入学時の特待生制度や、卒業時の優秀学生表彰報奨金などは継続して実施いたします。

D,については 1 年次と 2 年次に行っている健康診断や、年末に実施しているインフルエンザ予防接種等で学生の健康管理をしています。しかし、令和 2 年度は年度の初めより「新型コロナウイルス感染症」と共にある一年でした。学内での感染拡大の防止のために学生の体調把握については慎重に取り組みました。サーマルカメラを設置し、体温や発熱を可視化し、学級では毎日学生の検温を実施。館内各所と全教室に消毒液を配置し、手指洗浄、消毒、教室使用後の机椅子の消毒などを毎日実施しました。

E,について、本校では理容師美容師教育センターが主催する「全国理容美容学生技術大会」への取り組みを平成 20 年より行って来ました。これを大きなモチベーションとして学生たちは技術を磨くのですが、大変残念なことに令和 2 年度はコロナ禍にあってこの大会が中止となり、代わって学内での研鑽の場として年末に「校内コンクール」を実施しました。

F,については上記のように全教職員にて面談をし、指導やアドバイスを実施しています。

G,について、通常の学級運営を行う中、教員は学生の言動や表情など些細なことでも気になることがある場合は教職員から保護者に連絡をし、学生の学校での様子や行動を保護者に伝えるよう配慮しています。また、これについてはそのクラスを担当する教員だけではなく、全ての職員が協力して当たっています。

また、保護者参観を実施し、学校での成長した姿を見ていただく機会を設けています。問題を抱える学生の家庭訪問を実施、面談を行う、などのコミュニケーションも取っています。

H,について、追試の実施や補習の実施など、不出来学生や出席が不足した学生を切り捨てることなく「卒業」させることを最優先事項と考えています。

I,については大変重視しており、広報部を中心に在校生の出身校と連絡を取り、情報交換を行っています。在校生のみならずこれから入学を迎える高校生にとっても良好な教育内容を常に模索しています。

J,については広く高校に出向いて、入学希望者だけではなく、高校1年生や2年生を対象に美容業界全体について理解を深めていただくための活動を行っています。本校志願者だけでなく、広く美容業界についての理解を得る活動を行っており、それこそが本校の使命だと考えています。

6、教育環境

評価項目	自己評価
A、施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
B、海外研修などの実施の体制は整備されているか	-
C、防災に対する体制は整備されているか	4

A,については常に増築、改修、設備の定期的な入れ替えなどを実施しています。学生の学びの環境の整備は本校にとっても大変重要な課題だと考えます。

B,については例年2年次に海外研修を実施していますが、令和2年度はコロナ禍にあってこれを中止しました。学生が海外での技術を経験する機会は大変貴重なものと考えています。是非令和3年度以降はコロナの感染状況を注視した上で再開したいと思います。

C,について防災施設は整っており、防災担当職員が防災計画に則って職員の防火管理者資格の取得や、教職員と学生の防災訓練、避難訓練を年間計画の中に組み入れて実施しています。また、業者による消防施設の点検は毎年実施しています。

7、学生募集

評価項目	自己評価
A、学生募集活動は適正に行われているか	4
B、学生募集活動において、本校の理念や募集ポリシーを正確に伝え、誇大宣伝等誤解を与えることの無いよう誠実にしているか	4
C、学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
D、学費は妥当なものとなっているか	4

A,B,C,D 全てにおいて適切かつ正しく実施しています。

本校学生は北九州市を中心とした周辺市郡、大分県、山口県から入学します。そのほとんどが自宅からの通学生です。幅広い地域から通学する価値がある魅力的な学校づくりを心掛けるとともに、学生募集活動においては本校の就職率や国家試験の合格率などを的確に伝え、本校について理解してもらえるよう努力していま

す。令和2年度はコロナ禍にあってインターネットを多用した募集活動を行うこととなりましたが、その際にも学校の魅力を伝える上で決して飾り、華美にならないよう本校の特色を伝えることに徹しました。

学費については妥当なものと考えます。また、入学後も募集要項に記載されていない追加徴収や教材販売などは一切行っていません。教材については入学時に配布する教材に加え、授業開始時期に合わせて同期配布する教材で全ての授業を受講することができます。

また、卒業直前に学生が受験する国家試験の受験料（¥25,000・※令和2年度）も全て校納金の中から支出し、このために学生の負担が増えることが無いようにしています。

令和2年度は、令和3年度入学者に対して20万円の学費支援を決定し、在校生に対して5万円の支援を行いました。これはコロナ禍で保護者の収入減が懸念される中での特別措置として実施いたしました。

8、財務

評価項目	自己評価
A、中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
B、予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
C、財務に関する会計監査は適正に行われているか	4
D、財務情報公開の体制整備はできているか	4

A,B,Cについてはすべて適正に実施され、本校の経営状態は大変良好です。

Dにつきましては本校のウェブサイトにて公開をしています。この事で本校への理解が深まることを期待しています。

9、法令などの遵守

評価項目	自己評価
A、法令、専門学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	4
B、個人情報に対し、その保護のための対策がなされているか	4
C、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
D、自己評価を公開しているか	4

A,B,Cについてはすべて良好に実施・管理されています。

本校は県内唯一の美容組合が設置した養成施設です。法令に則りコンプライアンスを重んじることを職員にも徹底しています。

Dにつきましては昨年度より本校のウェブサイトにて公開をしています。これを公開することで本校が抱える問題点を整理することが出来ました。

10、社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価
A、学校の教育資源や施設を利用した社会貢献、地域貢献を行っているか	-
B、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	-
C、地域に対する公開講座・教育訓練受託などを積極的かつ定期的に行っているか	-

これらの項目についてはコロナ禍にあって例年実施している活動や、ボランティア活動の多くが中止となりました。そのため令和2年度のこの項目については評価無しとしました。

このような機会は地域の皆様に対してのみならず、学生にとっても貴重な場であります。今後は新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら学生の安全を確保し、是非再開したいと思います。

11、総合評価

上記項目を全て検証し、総合的に判断すると、本校は適正な学校運営をしていると判断・評価いたします。本年度は財務状況の開示や、自己評価の開示も実現し、より多くの方に本校の状況をご理解いただけることと思います。

また、令和3年度も引き続きコロナ禍での学校運営が続くこととなります。何よりも学生、講師、教職員の健康と安全を確保し、健全で安全な学校運営を継続して参ります。